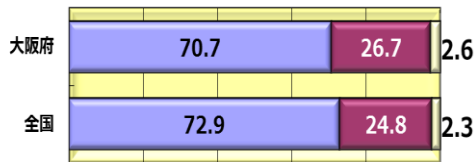


平均正答率は70.7%であり、基礎的・基本的な知識・技能の定着状況に課題が見られ、引き続き指導の充実が求められる

正答率比較

小学校国語A区分問題

■正答率 ■誤答率 □無解答率



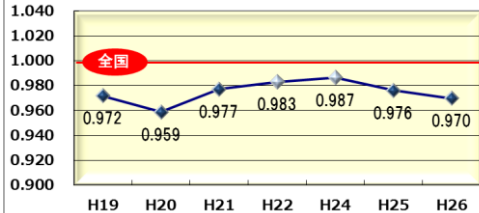
平均正答率は全国を2.2ポイント下回った

◆全国の平均正答率が72.9%であるのに対し、大阪府の平均正答率は70.7%であり、2.2ポイント全国を下回った。

対全国比は昨年度を下回った

◆各年度における平均正答率は年度ごとの問題の難易度に左右されるため、それらの条件を捨象して比較する必要がある。そこで、全国の平均正答率を1とし、大阪府の平均正答率との割合で比較した。平成26年度調査は昨年度に引き続き悉皆調査であり、単純に経年比較することは難しい。今年度は0.970となり、昨年度の0.976を下回った。

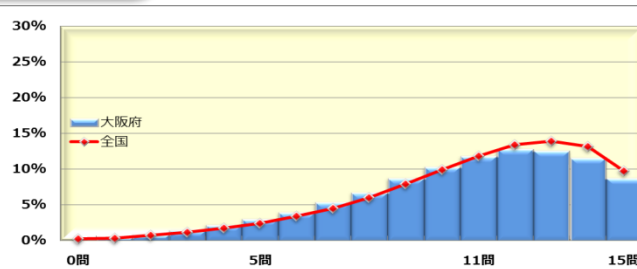
小学校国語A区分正答率対全国比経年比較



具体的な課題

- 故事成語の意味と使い方を理解すること(故事成語の使い方としてふさわしいものを選択する)
- 情景描写の効果を捉えること(登場人物の心情を表現する際に効果的な情景描写を考え選択する)
- 新聞の投書を読み、表現の仕方を捉えること(新聞の投書を読み、表現の仕方として適切なものを選択する)
- 物語の登場人物の相互関係を捉えて読むこと(物語の一部に入る適切な人物の名前を書く)

正答数分布

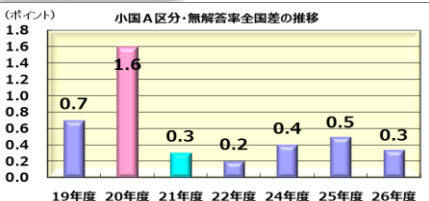


正答数分布の様子は全国の状況と同傾向

- ◆全国は13問、大阪府は12問を頂点にした右よりの山型を描いている。
- ◆大阪府の正答数分布の割合は、全国とほぼ同じ傾向である。
- ◆正答数分布を正答数により1/3ずつ低位層、中位層、高位層の3層に分け、分布の割合を全国を1とした割合で大阪府の様子と比較してみると低位層は1.251、中位層は1.110、高位層は0.923となり、全国に比べ低位層や中位層の割合が高い。
- ◆7年間の変化を見ると、低位層の割合が高く、高位層の割合が低い傾向が続いている。ここ3年間においては、高位層がやや減少傾向にある。

無解答率比較

小国A区分・無解答率全国差の推移

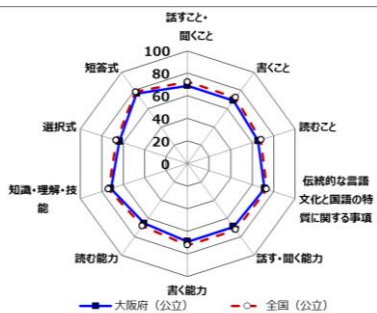


無解答率は全国の状況を0.3ポイント上回った

◆無解答率の全国との差を経年比較すると、平成22年度の0.2ポイントから、平成25年度の0.5ポイントまで、わずかながら全国との差は広がりがつあったが、今年度は0.3ポイントとなりその差はやや縮まった。

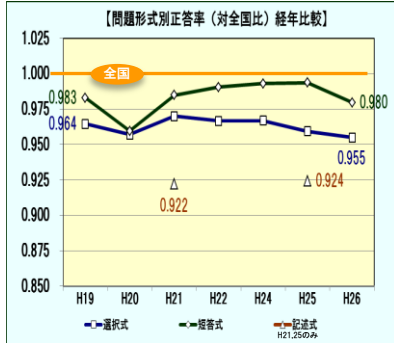
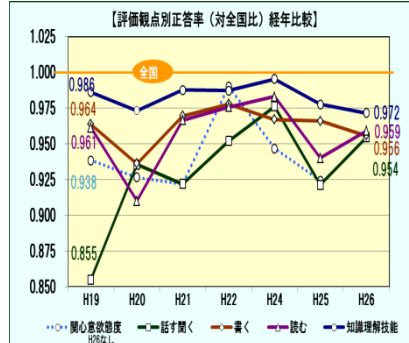
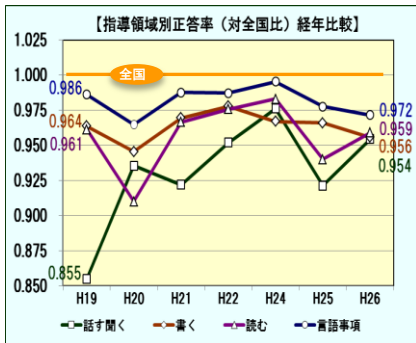
領域・観点・問題形式別

平成26年度 レーダーチャート



領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

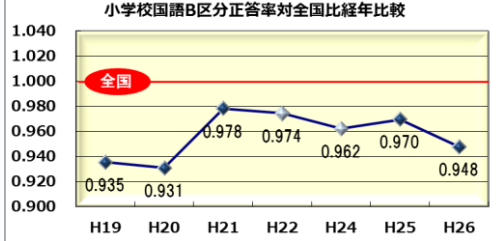
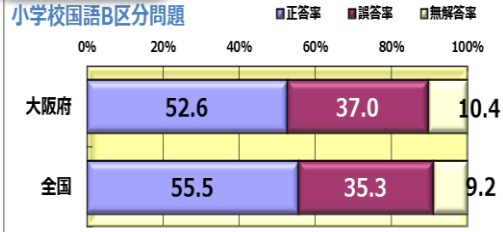
- ◆レーダーチャートの描くラインは、全国の状況とほぼ重なるように同傾向を示している。
- ◆今回の出題内容においては、全国、大阪府とも「選択式」が低い値を示している。



◆悉皆調査の結果と抽出調査の結果を、単純に経年比較することは難しいが、全国の平均正答率を1として、大阪府の平均正答率の割合で比較すると、領域、評価の観点、問題形式それぞれについて上のような傾向が見られる。(H19, 20, 21, 25, 26は悉皆調査、H22, 24は抽出調査)

平均正答率は52.6%であり、立場や根拠を明確にして、分かったことや考えたことを書いたりするなどの言語活動を取り入れた指導の充実が求められる

正答率比較



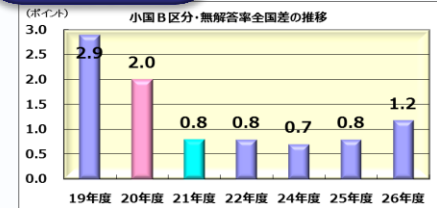
平均正答率は全国を2.9ポイント下回った

◆全国の平均正答率が55.5%であるのに対し、大阪府の平均正答率は52.6%であり、2.9ポイント全国を下回った。

対全国比は昨年度を下回った

◆各年度における平均正答率は年度ごとの問題の難易度に左右されるため、それらの条件を捨象して比較する必要がある。そこで、全国の平均正答率を1とし、大阪府の平均正答率との割合で比較した。平成26年度調査は昨年度に引き続き悉皆調査であるため、単純に経年比較することは難しい。今年度は0.948となり、昨年度の0.970を下回った。

無解答率比較

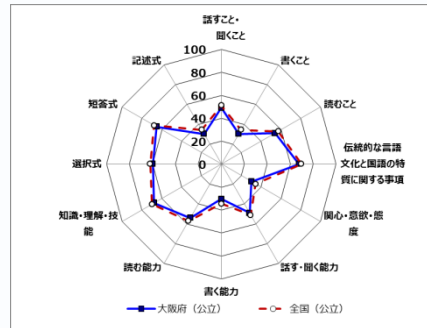


無解答率は全国の状況を1.2ポイント上回った

◆無解答率の全国との差を経年比較すると、平成19年度は2.9ポイント、平成20年度は2.0ポイント上回っていたのに対し、平成21年度からの4年間は、0.7~0.8ポイントの差であったが、本年度は、全国を1.2ポイント上回った。

領域・観点・問題形式別

平成26年度 レーダーチャート



領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

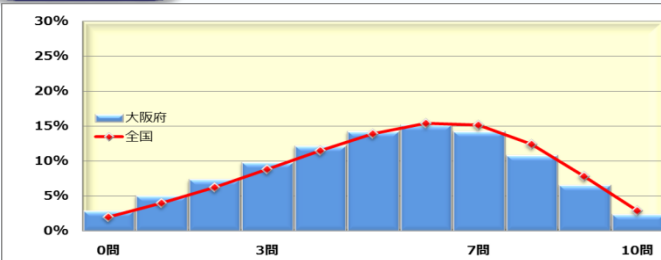
◆レーダーチャートの描くラインは、全国の状況とほぼ重なるように同傾向を示している。

◆今回の出題内容においては、全国、大阪府とも「書くこと」「関心・意欲・態度」「書く能力」「記述式」などが低い値を示している。

具体的な課題

- 立場を明確にして、質問や意見を述べること(卒業文集の書き方について手書きの立場から質問か意見を書く)
- 分かったことや疑問に思ったことを整理し、それらを関係付けながらまとめて書くこと(複数の付箋を整理し、条件に合わせて文章を書く)
- 詩の解釈における着眼点の違いを捉えて読み、自分の考えを書くこと(二つの詩を比べて読んで考えたことを条件に合わせて書く)

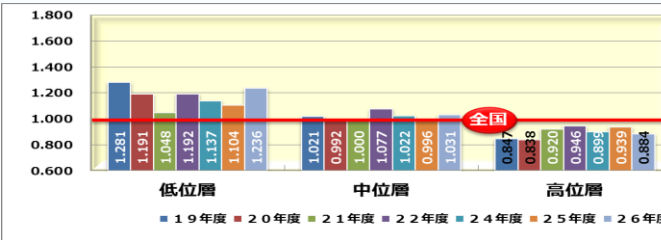
正答数分布



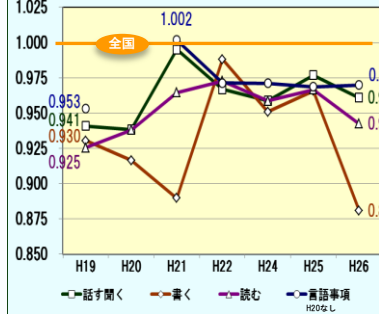
正答数分布の様子は全国の状況と同傾向

◆全国、大阪府とも6問を頂点にした右よりの山型を描いている。
◆大阪府は0~5問の間では、全国よりも分布の割合が高く、6~10問の間では、全国よりも分布の割合が低い。

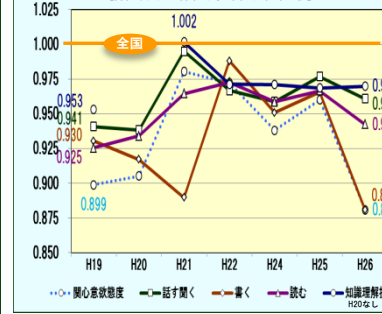
◆正答数分布を正答数により1/3ずつ低位層、中位層、高位層の3層に分け、分布の割合を全国を1とした割合で大阪府の様子を比較してみると、低位層は1.236、中位層は1.031、高位層は0.884となり、全国に比べ低位層の割合が高い。
◆7年間の変化を見ると、ここ3年間減少傾向にあった低位層、中位層の割合が増加し、平成25年度と比較して高位層の割合が減少した。



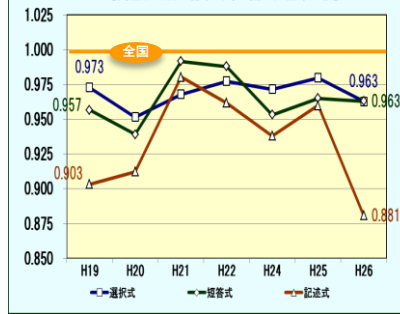
【指導領域別正答率(対全国比)経年比較】



【評価観点別正答率(対全国比)経年比較】



【問題形式別正答率(対全国比)経年比較】



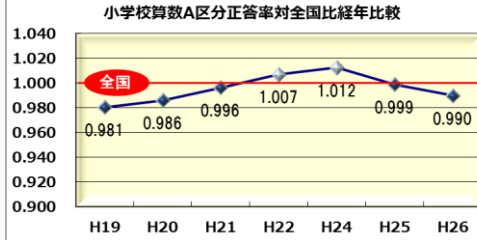
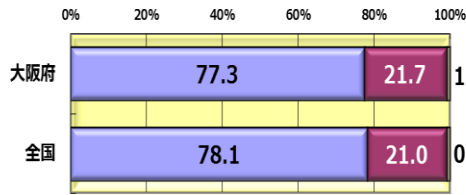
◆悉皆調査の結果と抽出調査の結果を、単純に経年比較することは難しいが、全国の平均正答率を1として、大阪府の平均正答率の割合を比較すると、領域、評価の観点、問題形式それぞれについて上のような傾向が見られる。(H19,20,21,25,26は悉皆調査、H22,24は抽出調査)

平均正答率は77.3%であり、各設問を個別に見ると継続的な課題が見られるものがあり、引き続き定着を図る取組を進める必要がある

正答率比較

小学校算数A区分問題

■正答率 ■誤答率 □無解答率



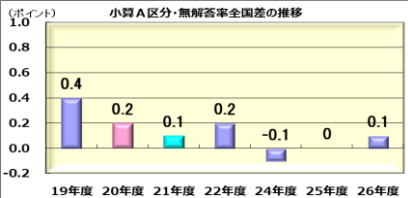
平均正答率は全国を0.8ポイント下回った

◆全国平均正答率が78.1%であるのに対し、大阪府平均正答率は77.3%であり、0.8ポイント全国を下回った。

対全国比は昨年度を下回った

◆各年度における平均正答率は年度ごとの問題の難易度に左右されるため、それらの条件を捨象して比較する必要がある。そこで、全国平均正答率を1とし、大阪府平均正答率との割合で比較した。平成26年度調査は昨年度に引き続き悉皆調査であるため、単純に経年比較することは難しい。7年間の推移を見てみると平成19年度から平成24年度まで増加傾向にあったが、平成25年度からは減少している。

無解答率比較



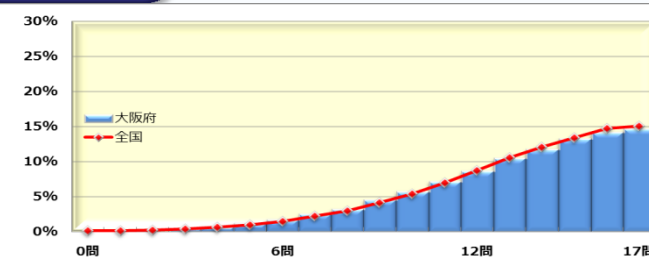
無解答率は全国を0.1ポイント上回った

◆無解答率の全国との差を経年比較すると、平成19年度から減少傾向にあり、平成24年度は0.1ポイント全国を下回る結果になった。昨年度は全国との差はなかったが、今年度は全国を0.1ポイント上回った。

具体的な課題

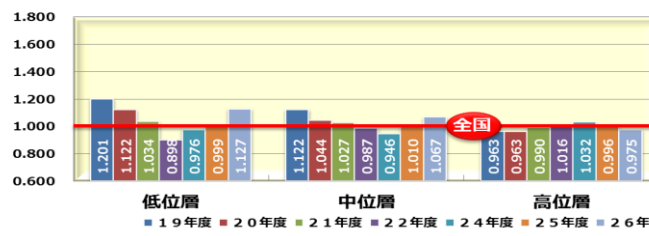
- 減法と乗法の混合した整数の計算をしたり、式の意味について理解すること(100-20×4の計算をしたり、答えが100-20×4の式で求められる問題を選ぶ)
- 割合が1より小さい場合でも比較量が(基準量)×(割合)で求められることを理解すること(示された図を基に、0.4倍に当たるテープの長さを求める式を選ぶ)
- 単位量当たりの大きさの求め方を理解すること(8㎡に16人いる部屋について、1㎡当たりの人数を求める式を書く)
- 作図に用いられている図形の約束や性質を理解すること(作図に用いられている平行四辺形の特徴を選ぶ)

正答数分布



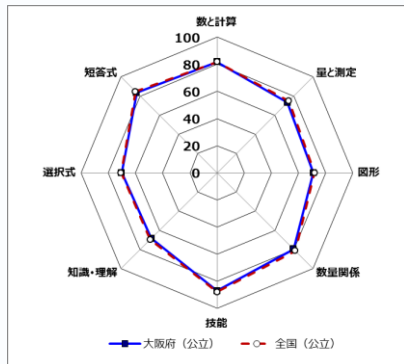
正答数分布の様子は全国の状況と同傾向

- ◆全国、大阪府とも17問を頂点とした右よりの山型を描いている。
- ◆大阪府の正答数分布の割合は、全国とほぼ同じ傾向である。
- ◆正答数分布を正答数により1/3ずつ低位層、中位層、高位層の3層に分け、分布の割合を全国を1とした割合で大阪府の様子と比較してみると低位層は1.127、中位層は1.067、高位層は0.975となり、全国に比べ低位層、中位層の割合が高い。
- ◆7年間の変化を見ると、高位層の割合は、ほぼ全国レベルで推移している。ここ3年間は、低位層、中位層は増加し、高位層は減少している。



領域・観点・問題形式別

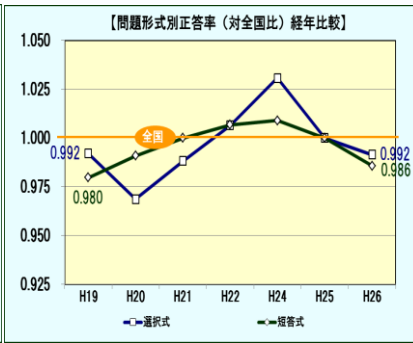
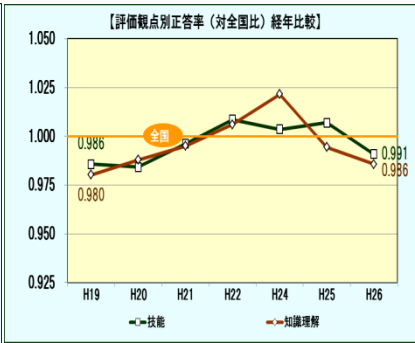
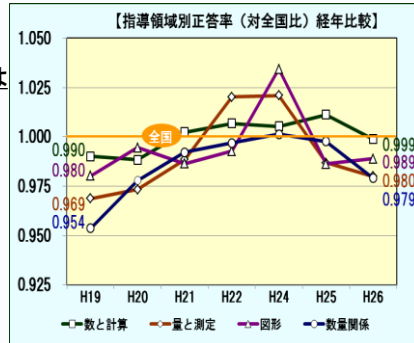
平成26年度 レーダーチャート



領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

◆レーダーチャートの描くラインは、全国との状況とほぼ重なるように同傾向を示している。

◆今回の出題内容においては、全国、大阪府とも「知識・理解」「選択式」で低い値を示している。

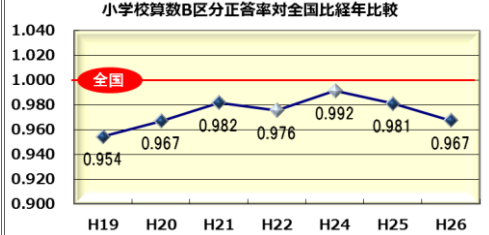
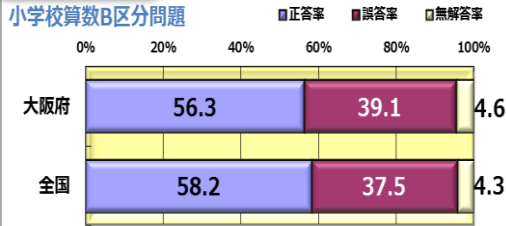


◆悉皆調査の結果と抽出調査の結果を、単純に経年比較することは難しいが、全国平均正答率を1として、大阪府平均正答率の割合を比較すると、領域、評価の観点、問題形式それぞれについて上のような傾向が見られる。(H19,20,21,25,26は悉皆調査、H22,24は抽出調査)

平均正答率は56.3%であり、根拠となる事柄を過不足なく示し、判断の理由を説明することに依然として課題がある

正答率比較

小学校算数B区分問題



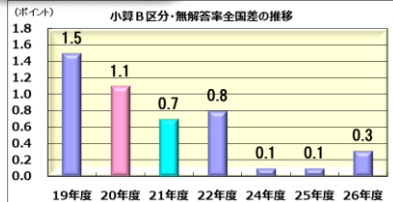
平均正答率は全国を1.9ポイント下回った

◆ 全国平均正答率が58.2%であるのに対し、大阪府の平均正答率は56.3%であり、1.9ポイント全国を下回った。

対全国比は昨年度を下回った

◆ 各年度における平均正答率は年度ごとの問題の難易度に左右されるため、それらの条件を捨象して比較する必要がある。そこで、全国平均正答率を1として、大阪府の平均正答率との割合で比較した。平成26年度調査は昨年度に引き続き悉皆調査であるため、単純に経年比較することは難しい。平成24年度まで増加傾向にあったが、平成25年度から減少している。

無解答率比較

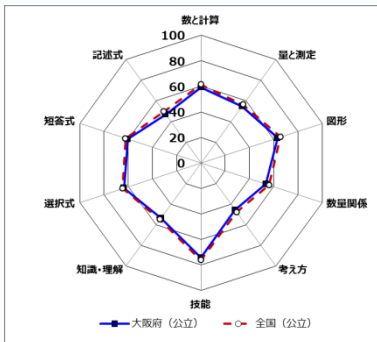


無解答率は全国を0.3ポイント上回った。

◆ 無解答率の全国との差を経年比較すると、全国を上回った値は平成19年度は1.5ポイント、平成20年度は1.1ポイントあったものが、平成24年度からの3年間は0.1～0.3ポイントの差にとどまっている。

領域・観点・問題形式別

平成26年度 レーダーチャート



領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

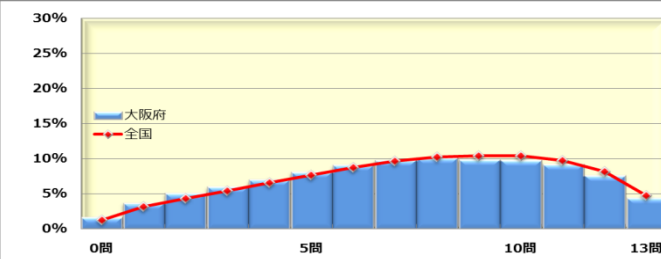
◆ レーダーチャートの描くラインは、全国との状況とほぼ重なるように同傾向を示している。

◆ 今回の出題内容においては、全国、大阪府とも「量と測定」「数量関係」「考え方」「知識・理解」「記述式」の項目で低い値を示している。

具体的な課題

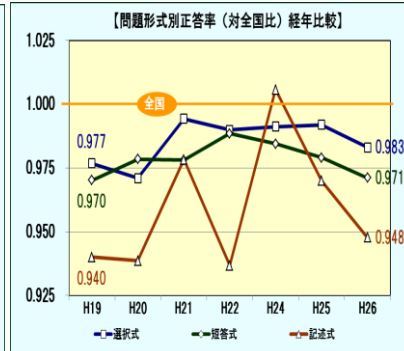
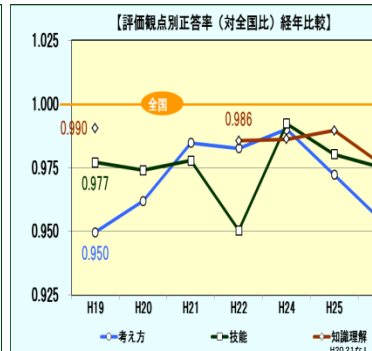
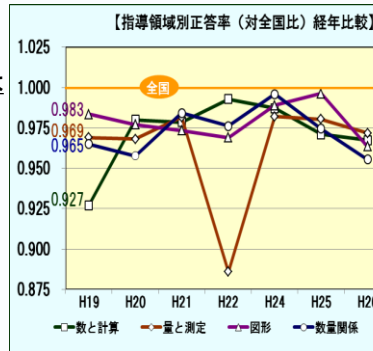
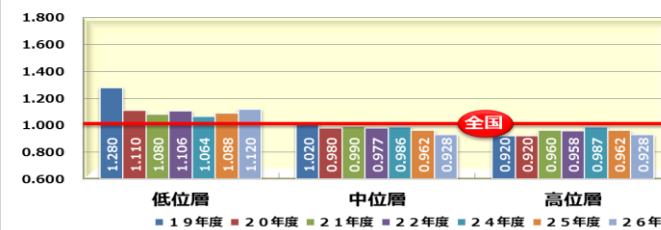
- 示された計算のきまりを基に、異なる数値の場合でも工夫して計算する方法を記述すること(二人の説明を基に、 37×24 の積が888になることを書く)
- 示された情報を基に必要な量と残りの量の大小を判断し、その理由を記述すること(示された分け方でスプーンを分けたとき、残り30人にスプーンを分けることができるかどうかを選び、そのわけを書く)
- 示された情報を整理し、筋道を立てて考え、小数倍の長さの求め方を記述すること(妹の身長を基に、妹の使いやすい箸の長さの求め方と答えを書く)

正答数分布



正答数分布の様子は全国の状況と同傾向

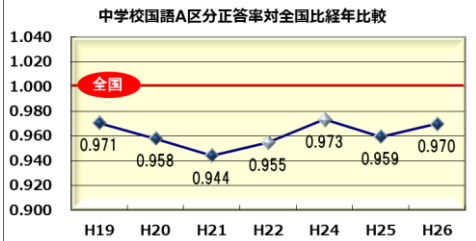
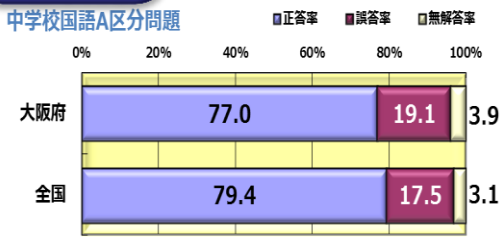
- ◆ 全国は9～10問、大阪府は8問を頂点にしたやや右よりの山型を描いている。
- ◆ 大阪府は0～7問の間では、全国よりも分布の割合が高く、8～13問の間では、全国よりも分布の割合が低い。
- ◆ 正答数分布を正答数により1/3ずつ低位層、中位層、高位層の3層に分け、分布の割合を全国を1とした割合で大阪府の様子と比較してみると、低位層は1.120、中位層は0.928、高位層は0.928となり、全国に比べ低位層の割合が高い。
- ◆ 7年間の変化を見ると、低位層の割合が高く、高位層の割合が低い傾向が続いている。ここ3年間は、低位層が増加し、中位層、高位層が減少している。



◆ 悉皆調査の結果と抽出調査の結果を、単純に経年比較することは難しいが、全国平均正答率を1として、大阪府の平均正答率の割合を比較すると、領域、評価の観点、問題形式それぞれについて上のような傾向が見られる。(H19,20,21,25,26は悉皆調査、H22,24は抽出調査)

平均正答率は77.0%であり、目的に沿って話し合い、互いの発言を検討すること等、継続的な課題への指導の充実が求められる

正答率比較



平均正答率は全国を2.4ポイント下回った

◆全国の平均正答率が79.4%であるのに対し、大阪府の平均正答率は77.0%であり、2.4ポイント全国を下回った。

対全国比はゆるやかな増加傾向にある

◆各年度における平均正答率は年度ごとの問題の難易度に左右されるため、それらの条件を捨象して比較する必要がある。そこで、全国の平均正答率を1とした場合の大阪府の平均正答率との割合で比較した。平成26年度調査は昨年度に引き続き悉皆調査であるため、単純に経年比較することは難しい。今年度は0.970となり、昨年度の0.959を上回り、悉皆調査だけで比較すると、平成21年度の0.944よりゆるやかな増加傾向にある。

無解答率比較



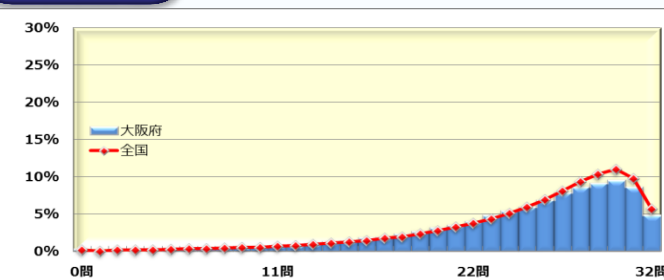
無解答率は全国の状況を0.8ポイント上回った

◆無解答率の全国との差を経年比較すると、平成19年度は1.1ポイント、平成20年度は1.4ポイント、平成21年度は1.5ポイント上回っており、全国との差が開く傾向にあった。しかし平成22年度以降、その差は1.1ポイント、1.0ポイント、昨年度と今年度は0.8ポイント上回ったにとどまり、全国との差は年々縮まる傾向にある。

具体的な課題

- 目的に沿って話し合い、互いの発言を検討すること(二人の発言を聞いて、意見の相違点を整理する)
- 文脈に即して漢字を正しく読むことや語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うこと(漢字を読む、適切な語句を選択する)

正答数分布

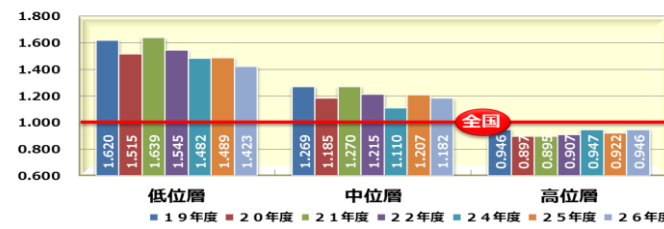


正答数分布の様子は全国の状況と同傾向

◆全国、大阪府とも30問を頂点にした右よりのなだらかな山型を描いている。
◆大阪府は、0～24問の間では全国よりも分布の割合が高く、26～32問の間では、全国よりも分布の割合が低い。

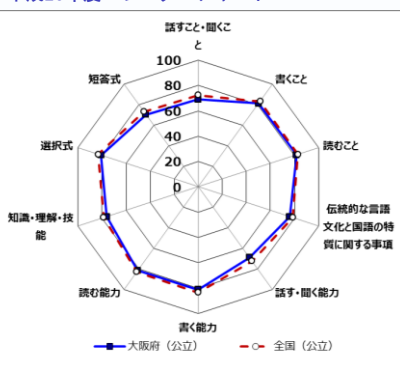
◆正答数分布を正答数により1/3ずつ低位層、中位層、高位層の3層に分け、分布の割合を全国を1とした割合で大阪府の様子を比較してみると、低位層は1.423、中位層は1.182、高位層は0.946となり、全国に比べ中位層から低位層に向かうにしたがって、その割合が高くなる。

◆7年間の変化を見ると、高位層の割合が低く、低位層の割合が高い傾向が続いている。本年度は低位層が減少し、高位層が増加した。



領域・観点・問題形式別

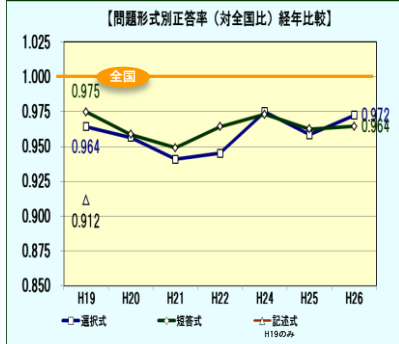
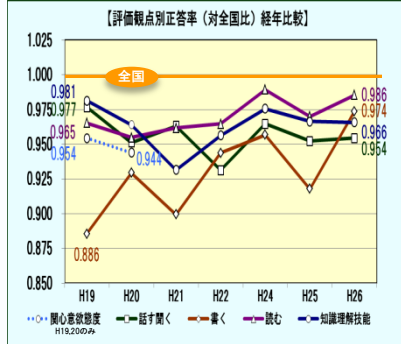
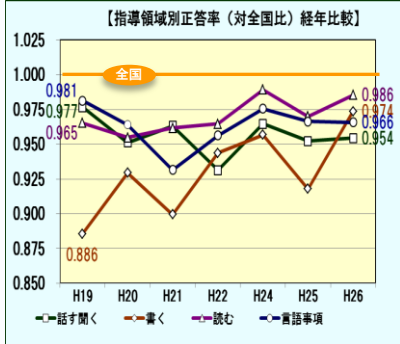
平成26年度 レーダーチャート



領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

◆レーダーチャートの描くラインは、全国の状況とほぼ同傾向を示している。

◆今回の出題内容においては、全国、大阪府ともに「話すこと・聞くこと」「話す・聞く能力」「短答式」で低い値を示している。

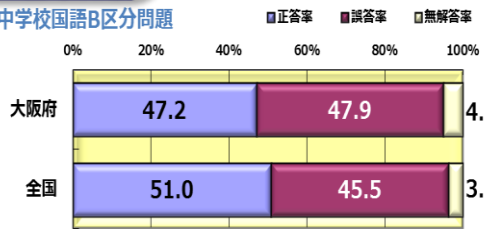


◆悉皆調査の結果と抽出調査の結果を、単純に経年比較することは難しいが、全国の平均正答率を1として、大阪府の平均正答率の割合を比較すると、領域、評価の観点、問題形式それぞれについて上のような傾向が見られる。(H19,20,21,25,26は悉皆調査、H22,24は抽出調査)

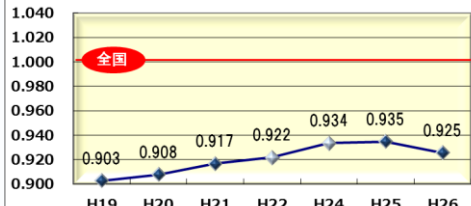
平均正答率は47.2%であり、資料を的確に読み取ることや根拠を明確にして自分の考えを書くことに課題が見られる

正答率比較

中学校国語B区分問題



中学校国語B区分正答率対全国比経年比較



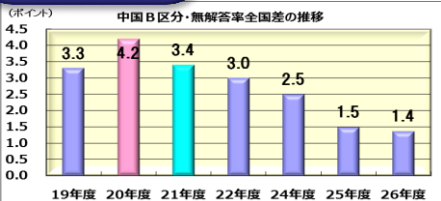
平均正答率は全国を3.8ポイント下回った

◆全国の平均正答率が51.0%であるのに対し、大阪府の平均正答率は47.2%であり、3.8ポイント全国を下回った。

対全国比は昨年度を下回った

◆各年度における平均正答率は年度ごとの問題の難易度に左右されるため、それらの条件を捨象して比較する必要がある。そこで、全国の平均正答率を1として、大阪府の平均正答率との割合で比較した。平成26年度調査は昨年度に引き続き悉皆調査であるため、単純に経年比較することは難しいが、平成19年度から増加傾向にあった正答率が、今年度は0.925となり、初めて前年度を下回った。

無解答率比較

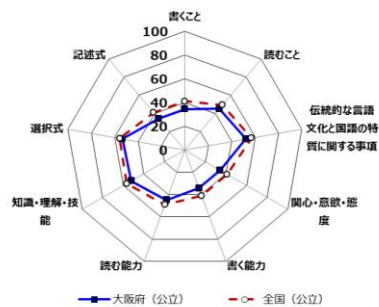


無解答率は全国の状況を1.4ポイント上回った

◆無解答率の全国との差を経年比較すると、平成19年度は3.3ポイント、平成20年度は4.2ポイント全国を上回っていたのに対し、昨年度1.5ポイント、今年度は1.4ポイントとなり、その差は小さくなった。また、平成20年度からの6年間の推移を見ると、年々差が縮まる傾向がみられる。

領域・観点・問題形式別

平成26年度 レーダーチャート



領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

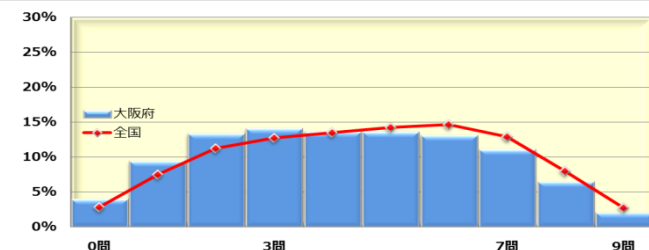
◆レーダーチャートの描くラインは、全国の状況と同傾向を示している。

◆今回の出題内容においては、全国、大阪府とも、「書くこと」「関心・意欲・態度」「書く能力」「記述式」の項目で低い値を示している。

具体的な課題

- 資料から適切な情報を得て、伝えたい事実や事柄が明確に伝わるように書くこと(水の中に浸すと、切手をきれいにはがすことができる理由を書く)
- 文章の構成や表現の仕方などについて、根拠を明確にして自分の考えを書くこと(ノートを基に、標語から伝わってくるメッセージと表現の工夫とその効果を書く)
- 落語に表れているものの見方や考え方について、根拠を明確にして自分の考え方を書くこと(落語の演じ方を選択し、なぜそのように演じるのかを、本文を根拠に殿さまの気持ちを想像して書く)

正答数分布



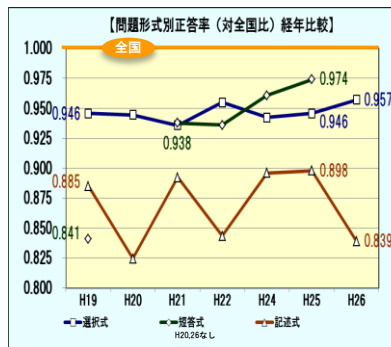
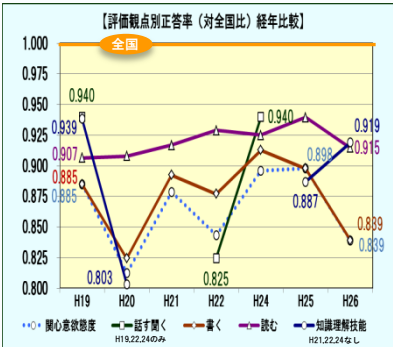
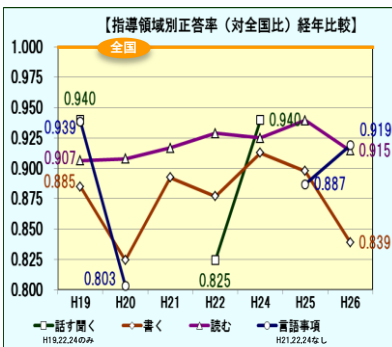
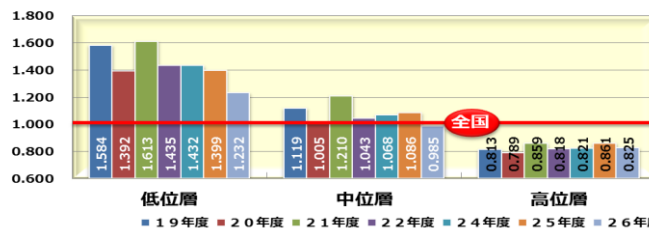
正答数分布の様子は全国の状況と同傾向

◆全国は6問を頂点にしたやや右よりの山型、大阪府は3問を頂点にしたやや左よりの山型を描いている。

◆大阪府は0~3問の間では、全国よりも分布の割合が高く、5~9問の間では、全国よりも分布の割合が低い。

◆正答数分布を正答数により1/3ずつ低位層、中位層、高位層の3層に分け、分布の割合を全国を1とした割合で大阪府の様子を比較してみると、低位層は1.332、中位層は0.985、高位層は0.825となり、全国に比べ低位層の割合が高い。

◆7年間の変化を見ると、低位層の割合は平成21年度から減少傾向にある。高位層の割合は低い傾向が続いている。

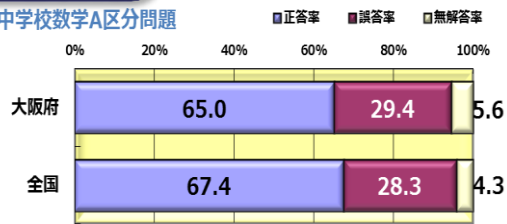


◆悉皆調査の結果と抽出調査の結果を、単純に経年比較することは難しいが、全国の平均正答率を1として、大阪府の平均正答率の割合を比較すると、領域、評価の観点、問題形式それぞれについて上のような傾向が見られる。(H19,20,21,25,26は悉皆調査、H22,24は抽出調査)

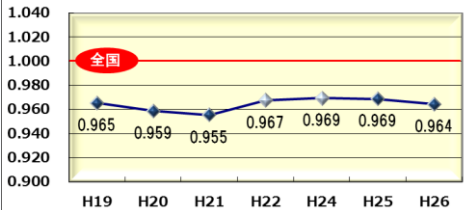
平均正答率は65.0%であり、各設問を個別に見ると継続的な課題が見られるものがあり、引き続き定着を図る取組を進める必要がある

正答率比較

中学校数学A区分問題



中学校数学A区分正答率対全国比経年比較



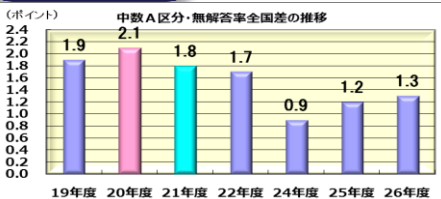
平均正答率は全国を2.4ポイント下回った

◆全国平均正答率が67.4%であるのに対し、大阪府の平均正答率は65.0%であり、2.4ポイント全国を下回った。

対全国比には大きな変化は見られない

◆各年度における平均正答率は年度ごとの問題の難易度に左右されるため、それらの条件を捨象して比較する必要がある。そこで、全国平均正答率を1とし、大阪府の平均正答率との割合で比較した。平成26年度調査は昨年度に引き続き悉皆調査であるため、単純に経年比較することは難しい。大阪府の平均正答率の割合は7年間大きな変化はみられない。

無解答率比較

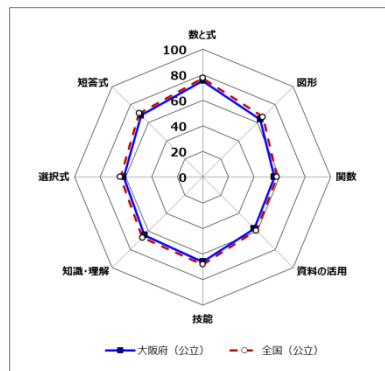


無解答率は全国の状況を1.3ポイント上回った

◆無解答率の全国との差を経年比較すると、平成19～22年度は1.7～2.1ポイントであるが、平成24年度からの3年間は0.9～1.3ポイントである。本年度は、昨年度より0.1ポイント上昇した。

領域・観点・問題形式別

平成26年度 レーダーチャート



領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

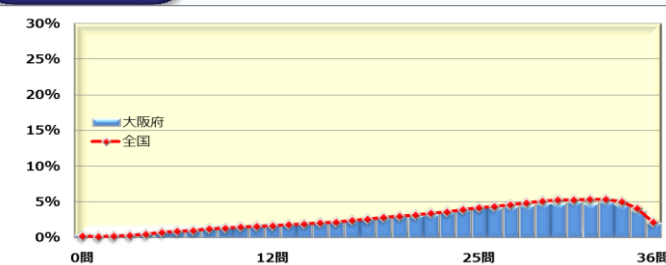
◆レーダーチャートの描くラインは、全国との状況と同傾向を示している。

◆今回の出題内容においては、全国、大阪府とも「関数」「資料の活用」「選択式」の項目で低い値を示している。

具体的な課題

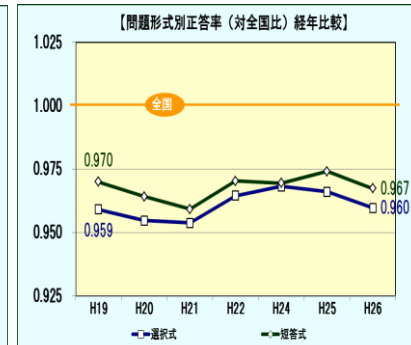
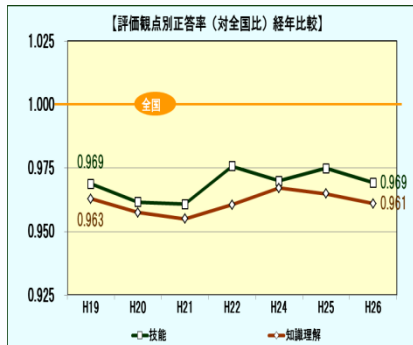
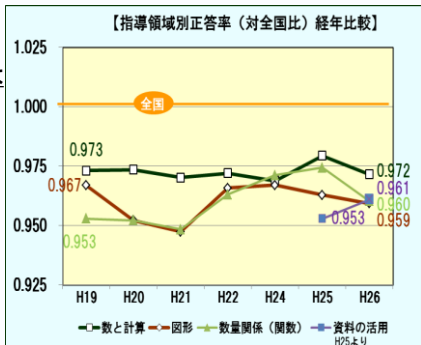
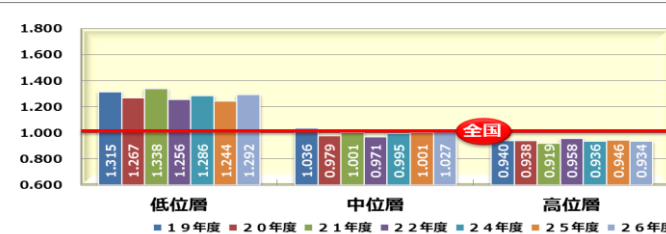
- 数量の大小関係を不等式に表すこと(「プールの水の深さは120cm以下である」という数量の関係を表した不等式を書く)
- 図形の回転移動の前後における角の対応を読み取ること(与えられた角が回転移動した後の角を選ぶ)
- 関数の意味を理解すること(宅配サービスの重量と料金の関係を「...は...の関数である」という形で表す)
- 相対度数を求めること(生徒60人の通学時間の分布を表した度数分布表から、ある階級の相対度数を求める)

正答数分布



正答数分布の様子は全国との状況と同傾向

- ◆全国、大阪とも33問を頂点とするわずかに右上がりの平坦な山型を描いている。
- ◆大阪府は、20問以下では全国よりも分布の割合が高く、26～36問の間では、全国よりも分布の割合が低い。
- ◆正答数分布を正答数により1/3ずつ低位層、中位層、高位層の3層に分け、分布の割合を全国を1とした割合で大阪府の様子を比較してみると、低位層は1.292、中位層は1.027、高位層は0.934となり、全国に比べ低位層に向かうにしたがって割合が高くなっている。
- ◆7年間の変化を見ると、低位層の割合が高い傾向が続いている。本年度は低位層、中位層が増加し、高位層が減少した。



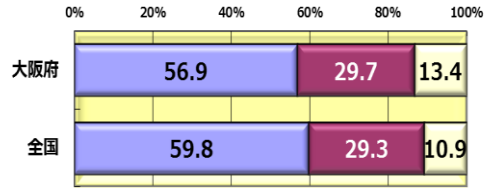
◆悉皆調査の結果と抽出調査の結果を、単純に経年比較することは難しいが、全国平均正答率を1として、大阪府の平均正答率の割合を比較すると、領域、評価の観点、問題形式それぞれについて上のような傾向が見られる。(H19,20,21,25,26は悉皆調査、H22,24は抽出調査)

平均正答率は56.9%であり、数学的に表現したり、数学的に表現された事柄を読み取ったりすることに課題がある

正答率比較

中学校数学B区分問題

■正答率 ■誤答率 □無解答率



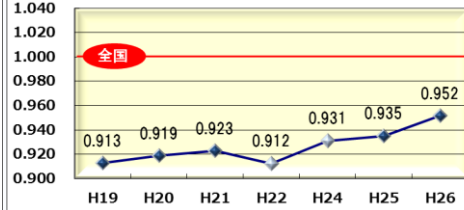
平均正答率は全国を2.9ポイント下回った

◆全国の平均正答率が59.8%であるのに対し、大阪府の平均正答率は56.9%であり、2.9ポイント全国を下回った。

対全国比はゆるやかな増加傾向にある

◆各年度における平均正答率は年度ごとの問題の難易度に左右されるため、それらの条件を捨象して比較する必要がある。そこで、全国の平均正答率を1とし、大阪府の平均正答率との割合で比較した。平成26年度調査は昨年度に引き続き悉皆調査であるため、単純に経年比較することは難しい。今年度は0.952となり、平成22年度を除き、平成19年度からゆるやかな増加傾向にある。

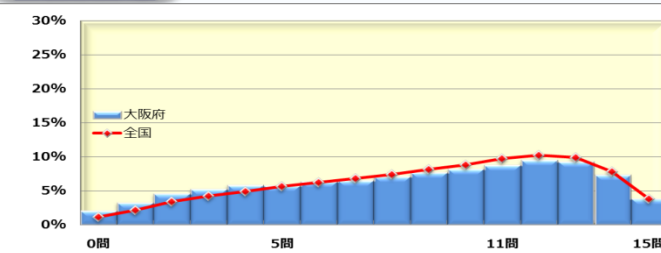
中学校数学B区分正答率対全国比経年比較



具体的な課題

- 証明された事柄を基に発展的に考えること(付加された条件を用いて角の大きさを求める)
- 結果を改善して問題を解決する方法を数学的に説明すること(グラフの特徴を事象に即して解釈し「兄の速さ」を求める方法を説明する)
- 不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること(1点と2点のとりやすさについての正しい記述を選び、その理由を確率を用いて説明する)

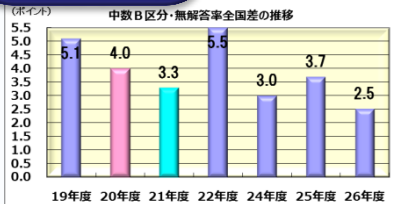
正答数分布



正答数分布の様子は全国の状況と同傾向

- ◆全国、大阪府とも12問を頂点にした平坦な山型を描いている。
- ◆大阪府は0~4問の間では、全国よりも分布の割合が高く、7~15問の間では、全国よりも分布の割合が低い。
- ◆正答数分布を正答数により1/3ずつ低位層、中位層、高位層の3層に分け、分布の割合を全国を1とした割合で大阪府の様子と比較してみると、低位層は1.316、中位層は0.956、高位層は0.926となり、全国に比べ低位層の割合が高く、高位層の割合が低い。
- ◆7年間の変化を見ると、低位層の割合は高い傾向が続いているが、高位層の割合が年々増加している。

無解答率比較

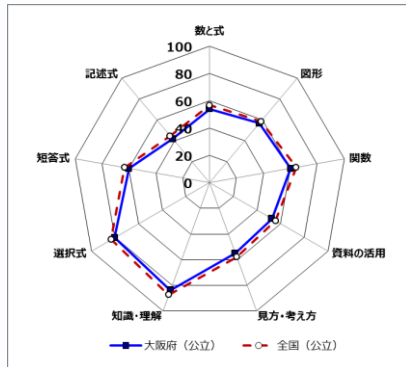


無解答率は全国の状況を2.5ポイント上回った

◆無解答率の全国との差を経年比較すると、平成19年度は5.1ポイント、平成20年度は4.0ポイント、平成21年度は3.3ポイントと差が縮まる傾向にあったが、平成22年度は5.5ポイント上回っており、全国との差が再び広がった。今年度は2.5ポイントであり、全国の状況との差はやや縮まった。

領域・観点・問題形式別

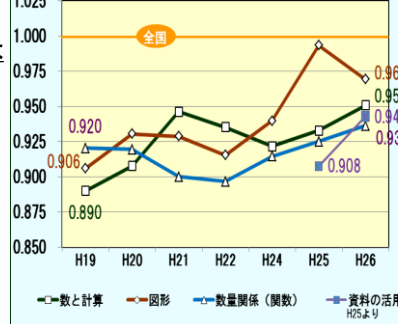
平成26年度 レーダーチャート



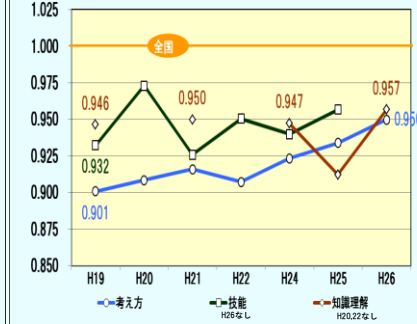
領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

- ◆レーダーチャートの描くラインは、全国の状況と同傾向を示している。
- ◆今回の出題内容においては、全国、大阪府とも「知識・理解」と「選択式」以外の項目で低い値を示している。

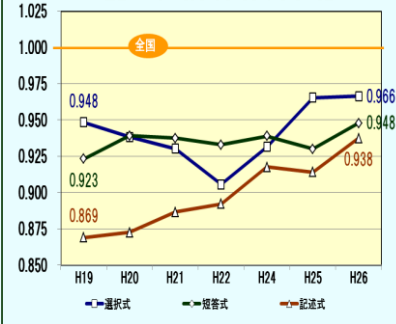
【指導領域別正答率(対全国比)経年比較】



【評価観点別正答率(対全国比)経年比較】



【問題形式別正答率(対全国比)経年比較】



◆悉皆調査の結果と抽出調査の結果を、単純に経年比較することは難しいが、全国の平均正答率を1として、大阪府の平均正答率の割合を比較すると、領域、評価の観点、問題形式それぞれについて上のような傾向が見られる。(H19,20,21,25,26は悉皆調査、H22,24は抽出調査)

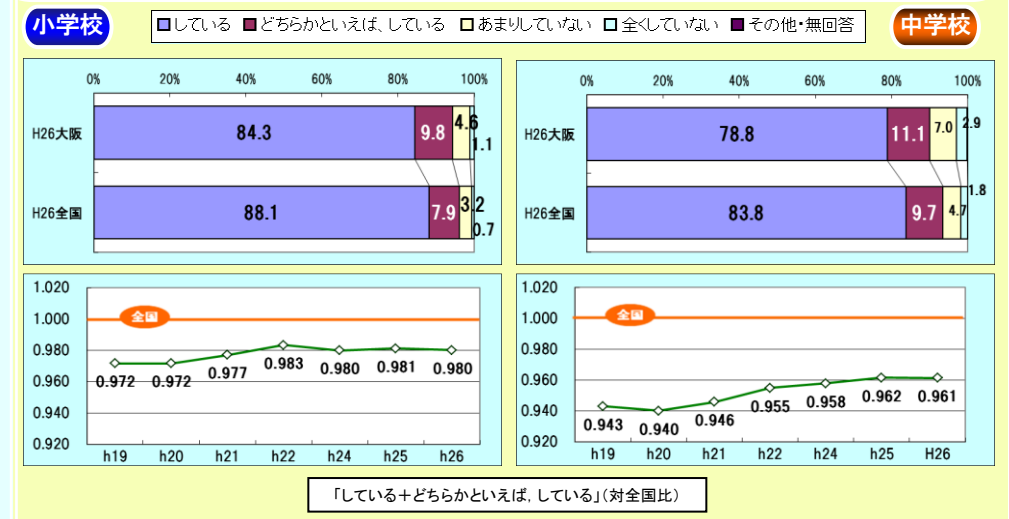
◆大阪の子どもたちの様子 (公立小・中学校) - 児童・生徒質問紙調査より - No.1

◆帯グラフの数値はすべて%表示です。
◆折れ線グラフの数値(対全国比)は、大阪府/全国で算出した値です。

1 朝ごはん

Q: 朝食を毎日食べていますか?

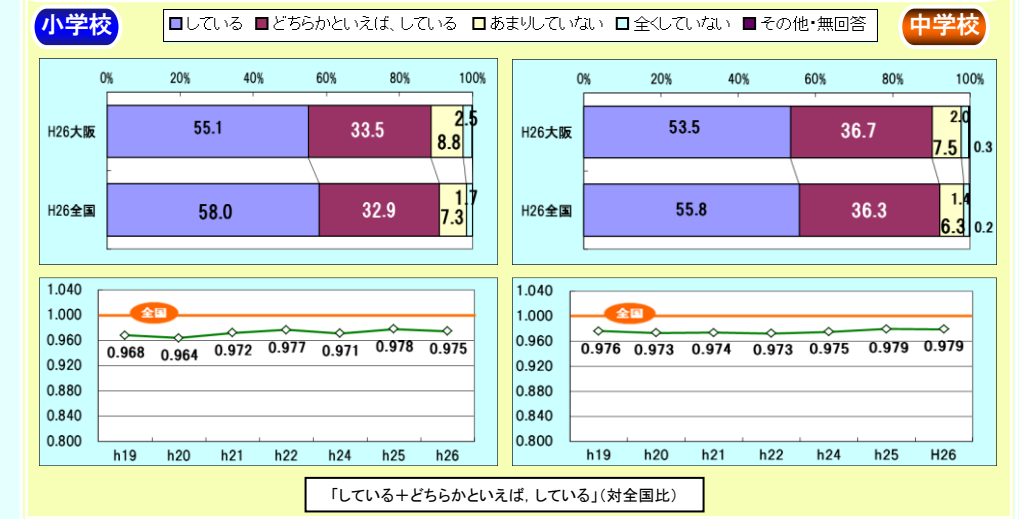
・小・中学校ともに、「朝食を毎日食べている」児童・生徒の割合は、全国の状況を下回る



2 起床時刻

Q: 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか?

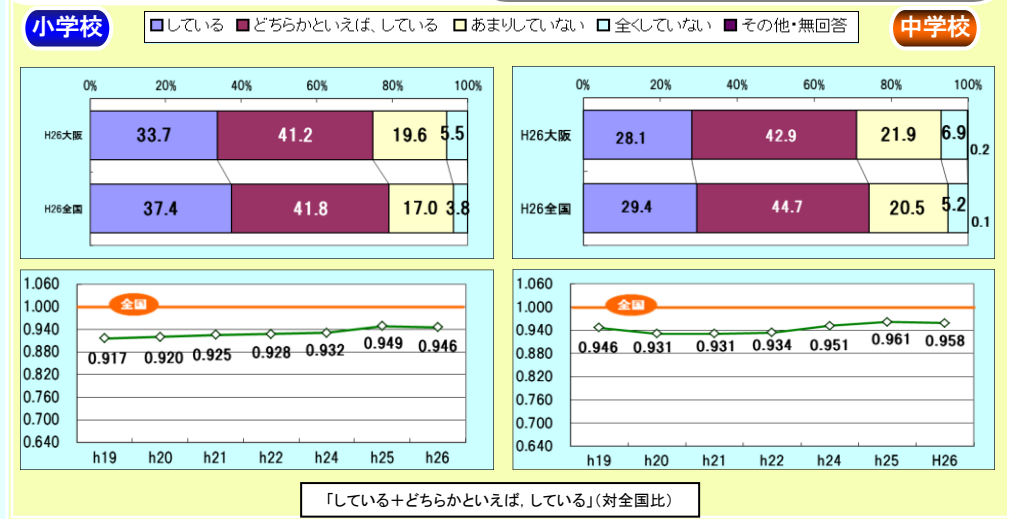
・小・中学校ともに、「毎日、同じくらいの時刻に起きています」児童・生徒の割合は、全国の状況を下回る



3 就寝時刻

Q: 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか?

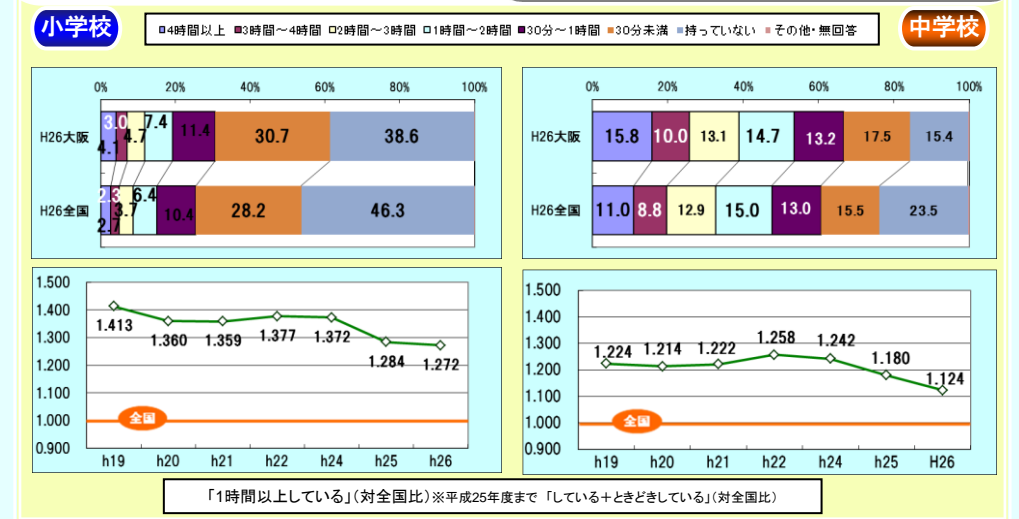
・小・中学校ともに、「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」児童・生徒の割合は、全国の状況を下回る



4 携帯電話やスマートフォンの使用

Q: 普段(月～金曜日)、どれくらい携帯電話などで通話やメール等をしますか?

・携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間は、小・中学校ともに全国の状況よりも長い傾向にある ※ 同意の質問項目の文言が今年度から変更

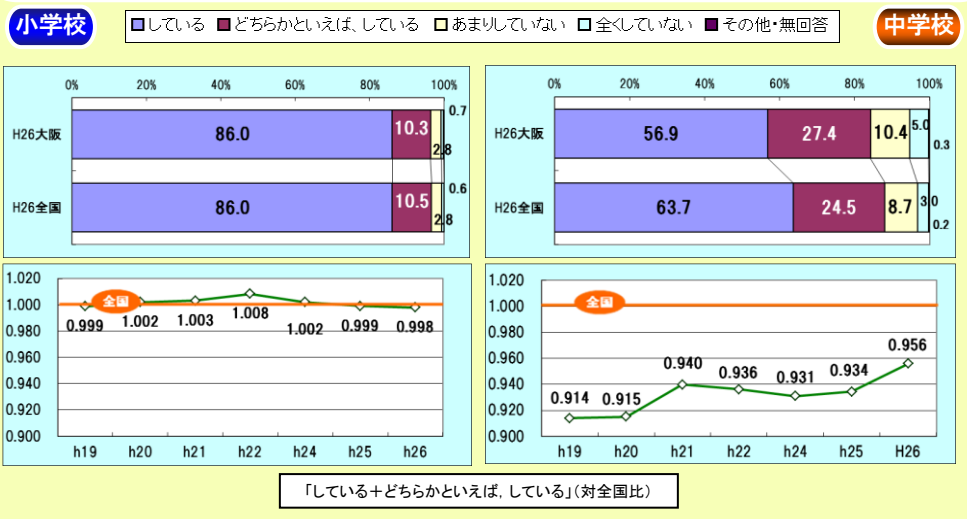


◆帯グラフの数値はすべて%表示です。
 ◆折れ線グラフの数値(対全国比)は、大阪府/全国で算出した値です。

5 学校の宿題

Q: 家で学校の宿題をしていますか?

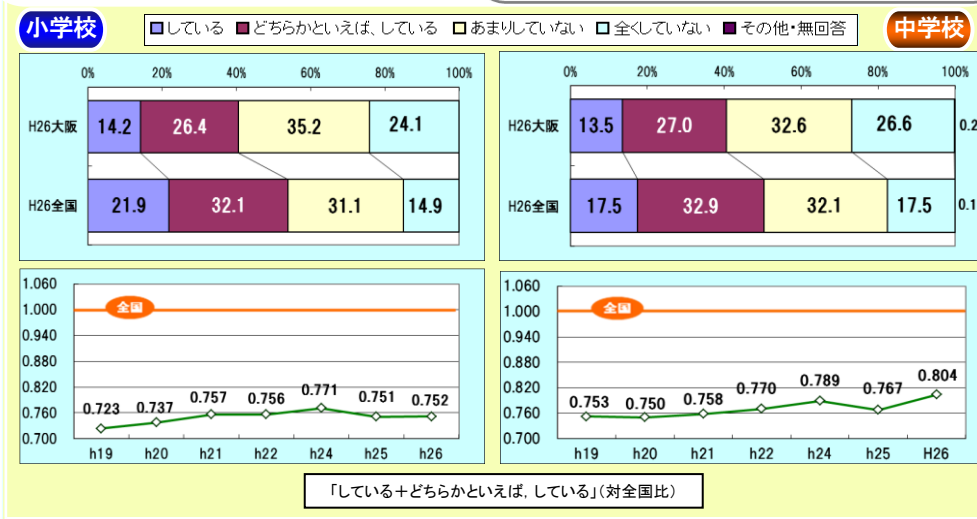
・家で学校の宿題をしている割合は、中学校において全国
 の状況を下回っている



6 授業の復習

Q: 家で学校の授業の復習をしていますか?

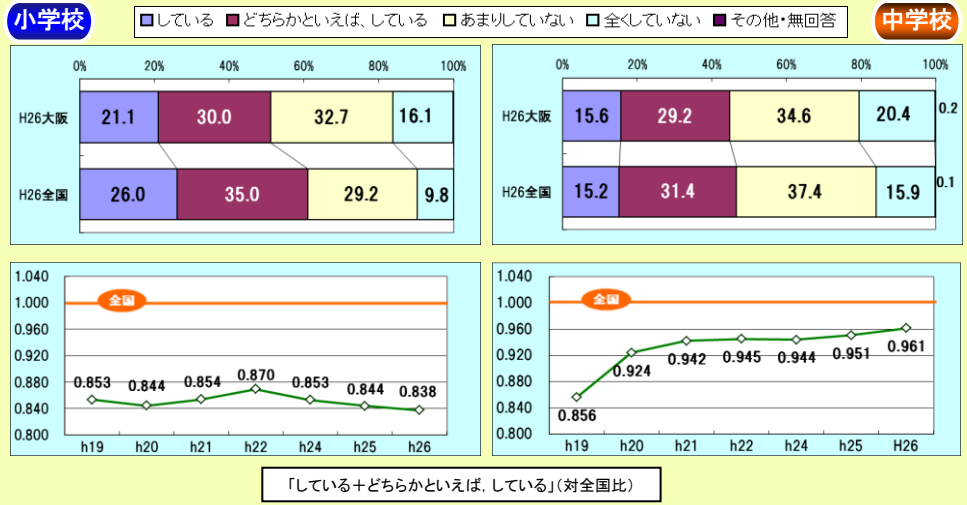
・家で学校の授業の復習をしている児童・生徒の割合は、
 小・中学校ともに全国の状況を下回っている



7 自主的・計画的な家庭学習

Q: 家で自分で計画を立てて勉強をしますか?

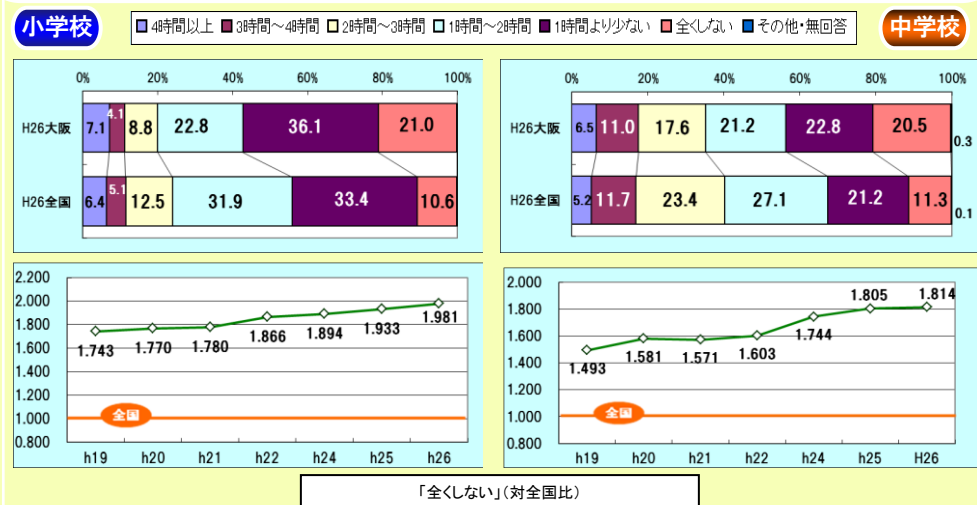
・「自主的・計画的に家庭学習に取り組んでいる」児童・生徒
 の割合は、全国の状況を下回る



8 休日の家庭学習

Q: 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日あ
 たりどれくらいの時間、勉強をしますか?

・「休日に家庭学習を全くしない」児童・生徒の割合は、全国
 の状況を上回る



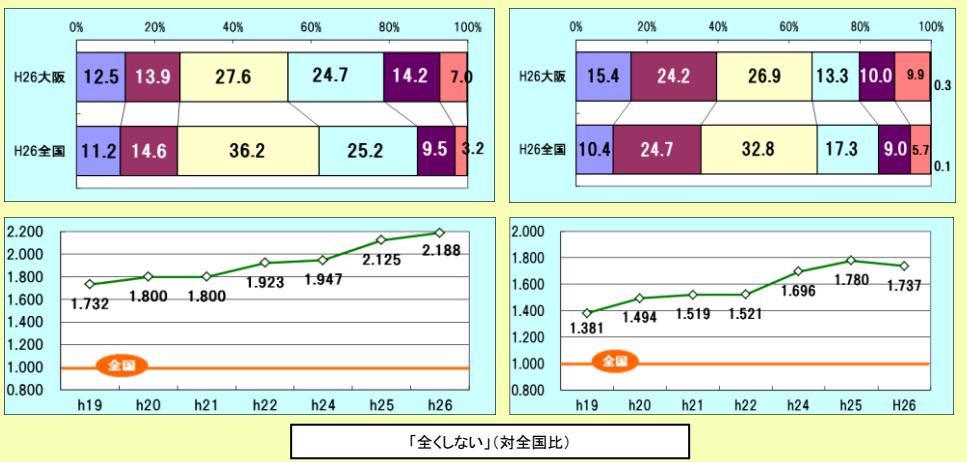
◆帯グラフの数値はすべて%表示です。
 ◆折れ線グラフの数値(対全国比)は、大阪府/全国で算出した値です。

9 1日あたりの勉強時間

Q: 学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、勉強しますか?

・「普段、家庭学習に2時間以上取り組んでいる」児童・生徒の割合と、「全く取り組まない」児童・生徒の割合がともに全国の状況を上回る

小学校 3時間以上 2時間～3時間 1時間～2時間 30分～1時間 30分より少ない 全くしない その他・無回答 **中学校**



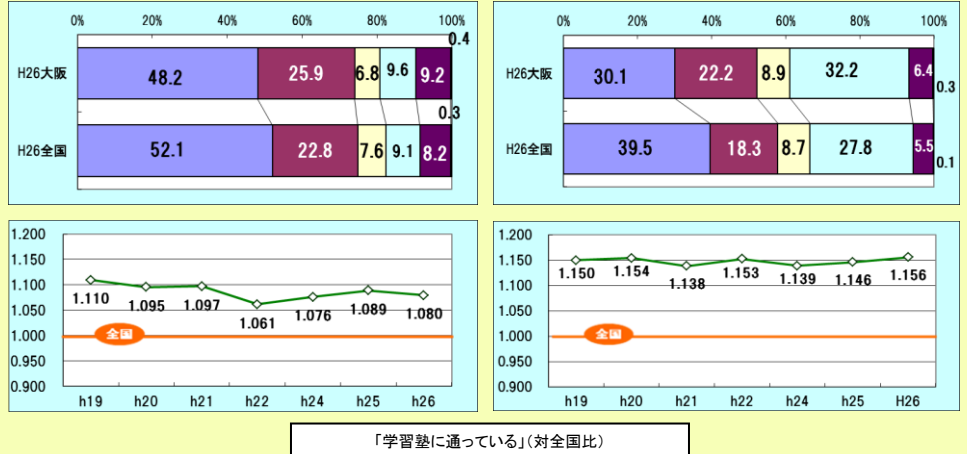
「全くしない」(対全国比)

10 学習塾等での勉強

Q: 学習塾(家庭教師を含む)で勉強をしていますか?

・小・中学校ともに、通塾率は全国の状況を上回る

小学校 学習塾に通っていない 学校の勉強でよく分からなかった内容を勉強している 上記2,3の内容のどちらともない **中学校** 学校の勉強より進んだ内容や、難しい内容を勉強している 上記2,3の両方の内容を勉強している その他・無回答



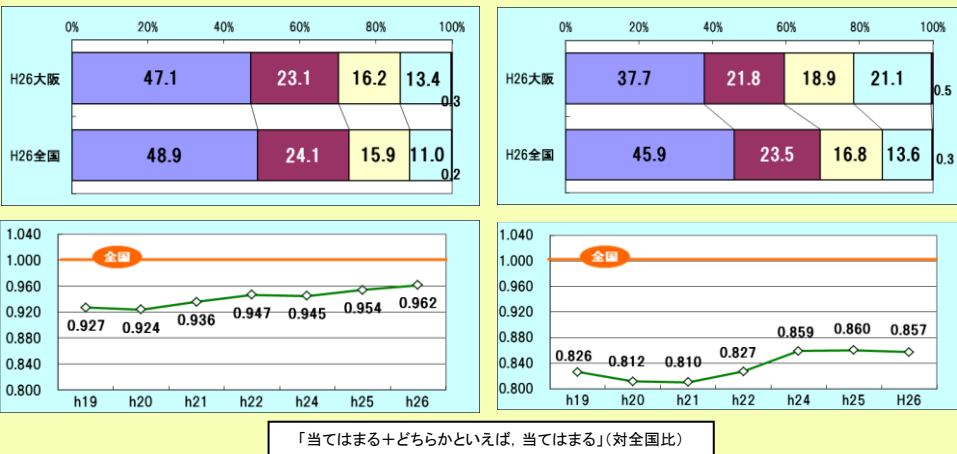
「学習塾に通っている」(対全国比)

11 読書の好き嫌い

Q: 読書は好きですか?

・読書の好きな児童・生徒の割合は、全国の状況を下回っているが、小学校の対全国比は上昇する傾向にある

小学校 当てはまる どちらかといえば、当てはまる どちらかといえば、当てはまらない 当てはまらない その他・無回答 **中学校**



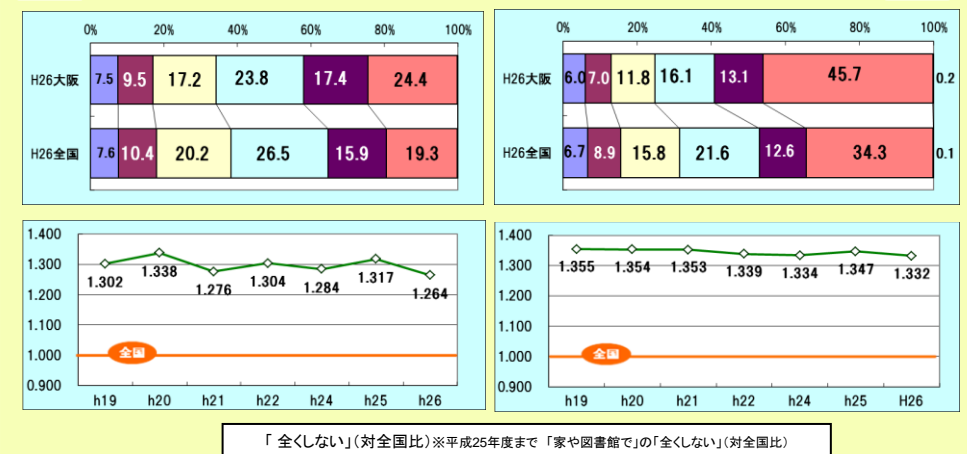
「当てはまる+どちらかといえば、当てはまる」(対全国比)

12 読書の時間

Q: 学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、どれくらいの時間、読書しますか?

・「普段、学校の授業時間以外に読書を全くしない」児童・生徒の割合は、小・中学校とも全国の状況を上回る
 ※ 同意の質問項目の文言が今年度から変更

小学校 2時間以上 1時間～2時間 30分～1時間 10分～30分 10分より少ない 全くしない その他・無回答 **中学校**



「全くしない」(対全国比) ※平成25年度まで「家や図書館で」の「全くしない」(対全国比)

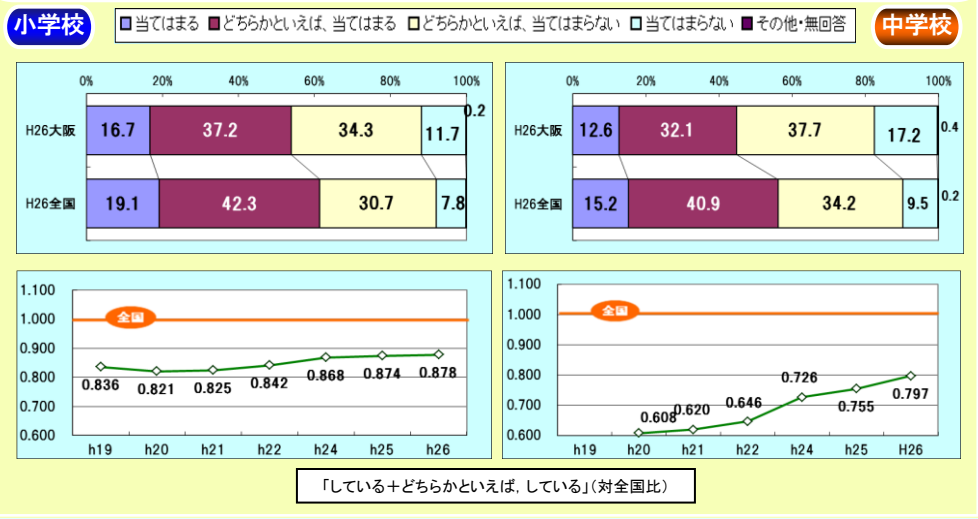
◆大阪の子どもたちの様子 (公立小・中学校) - 児童・生徒質問紙調査より - No.4

◆帯グラフの数値はすべて%表示です。
 ◆折れ線グラフの数値(対全国比)は、大阪府/全国で算出した値です。

13 国語の授業について

Q: 国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか?

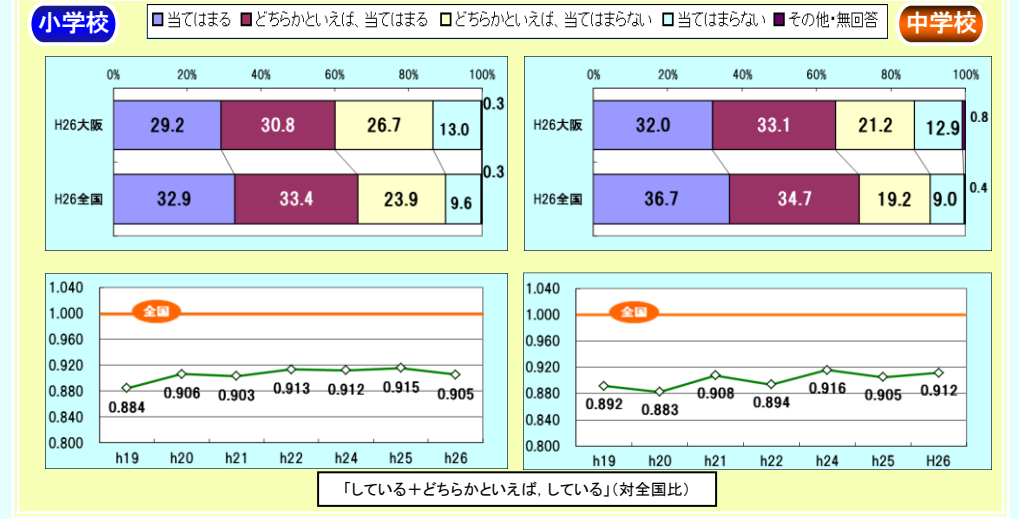
・国語の授業で、「自分の考えを話したり、書いたりしている」と回答した割合は、小・中学校ともに全国を下回っている



14 算数・数学の授業について

Q: 算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか? (小学校)

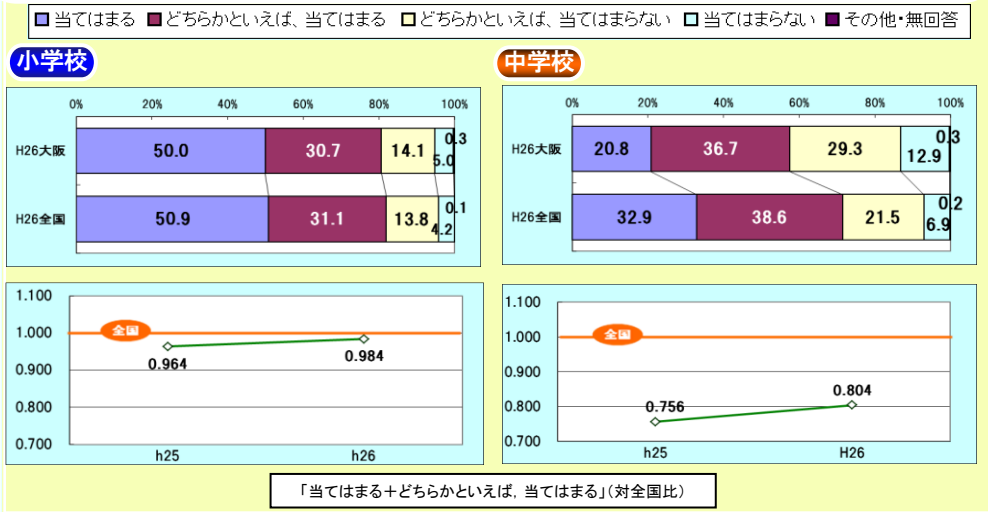
・算数・数学の学習内容を、普段の生活や将来のことに結び付けて意識付けている児童・生徒の割合は、全国の状態を下回っている



15 目標の提示

Q: 普段の授業では、はじめに授業の目標(めあて・ねらい)が示されていると思いますか?

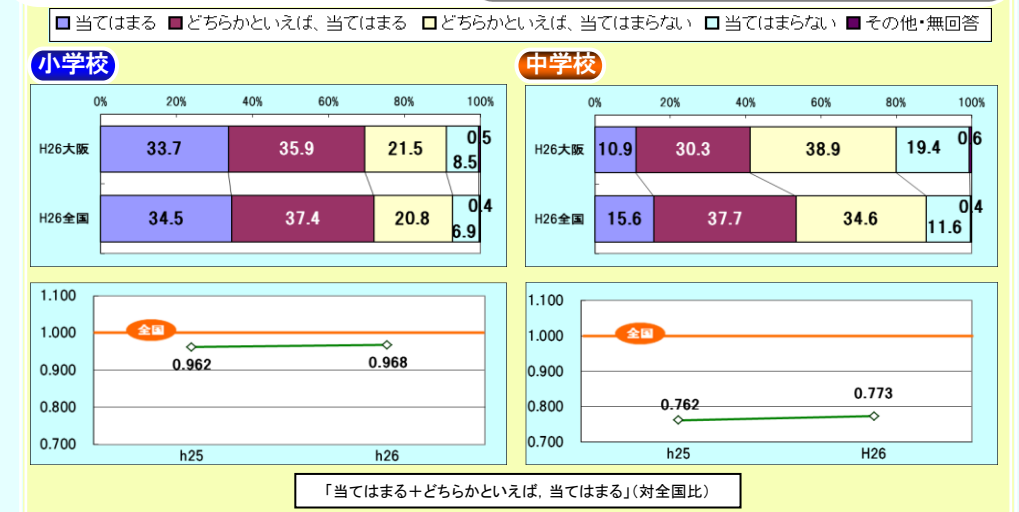
・小・中学校ともに、授業の中で「目標が示されている」と、捉えている児童・生徒の割合は全国の状態を下回っている



16 振り返る活動

Q: 普段の授業では、最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていると思いますか?

・小・中学校ともに、授業の中で「振り返る活動が行われている」と、捉えている児童・生徒の割合は全国の状態を下回っている

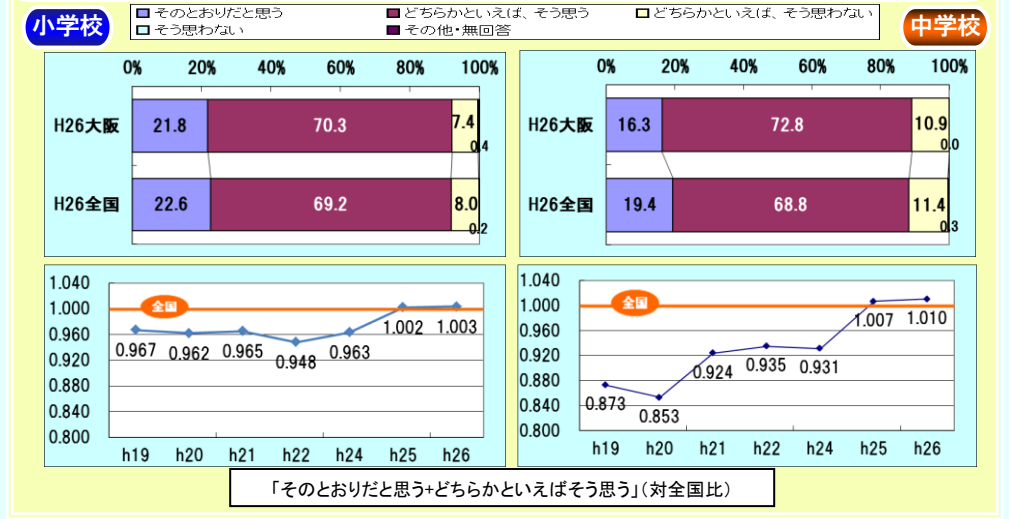


◆帯グラフの数値はすべて%表示です。
 ◆折れ線グラフの数値(対全国比)は、大阪府/全国で算出した値です。

1 学習への熱意

Q: 熱意を持って勉強していると思いますか?

・「児童・生徒は熱意を持って勉強している」と捉えている学校の割合は、小・中学校ともに全国を上回っている

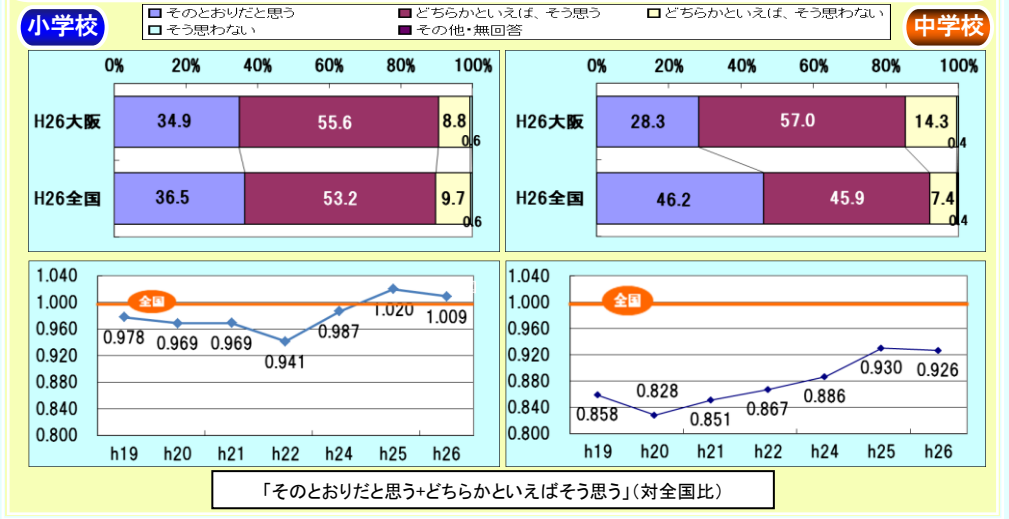


「そのとおりだと思う+どちらかといえばそう思う」(対全国比)

2 授業中の落ち着き

Q: 授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか?

・「授業中の私語が少なく、落ち着いている」と捉えている学校の割合は、小学校では全国を上回っているが、中学校では下回っている。

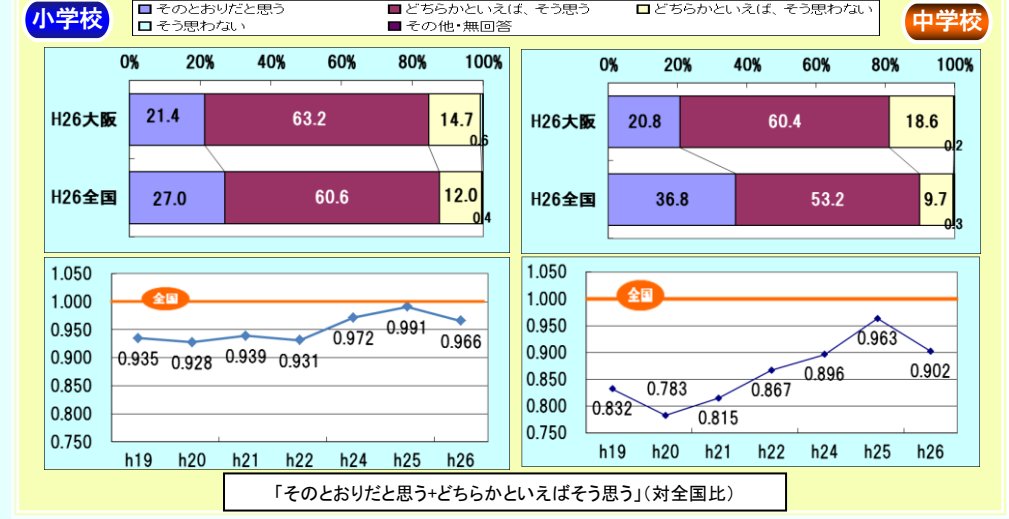


「そのとおりだと思う+どちらかといえばそう思う」(対全国比)

3 礼儀正しさ

Q: 児童・生徒は礼儀正しいと思いますか?

・「児童・生徒は礼儀正しい」と捉えている学校の割合は、小・中学校ともに全国を下回っている

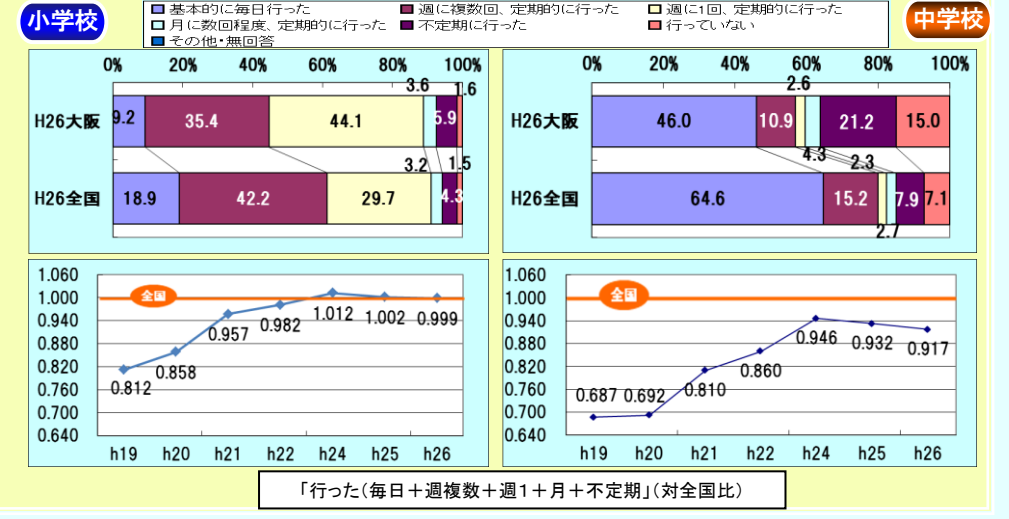


「そのとおりだと思う+どちらかといえばそう思う」(対全国比)

4 朝の読書

Q: 一斉読書の時間を設けていますか?

・一斉読書に取り組んでいない学校の割合は、中学校では全国を上回っている



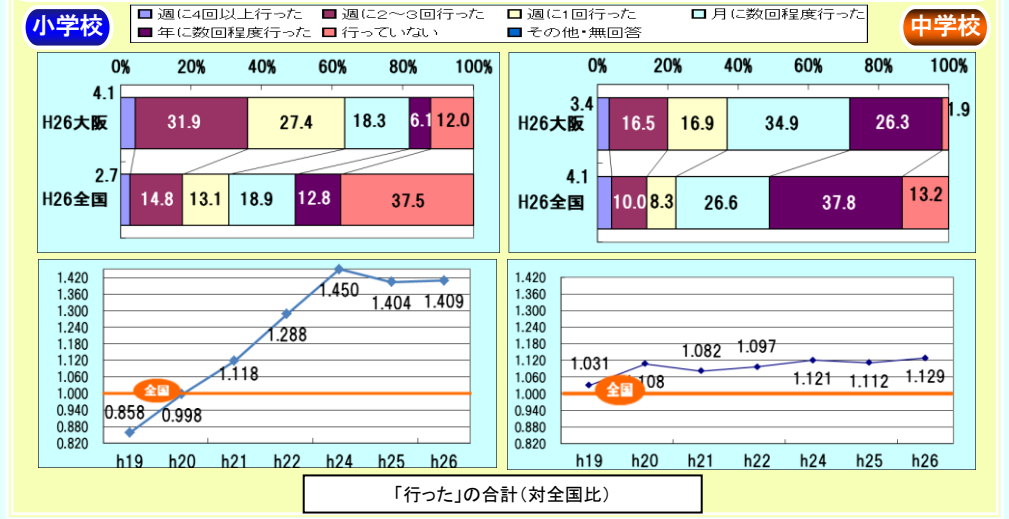
「行った(毎日+週複数+週1+月+不定期)」(対全国比)

◆帯グラフの数値はすべて%表示です。
 ◆折れ線グラフの数値(対全国比)は、大阪府/全国で算出した値です。

5 放課後の活用

・放課後の学習サポートの実施状況は、小・中学校ともに全国の状況を上回っている
 ・特に小学校においては、大きく上回っている

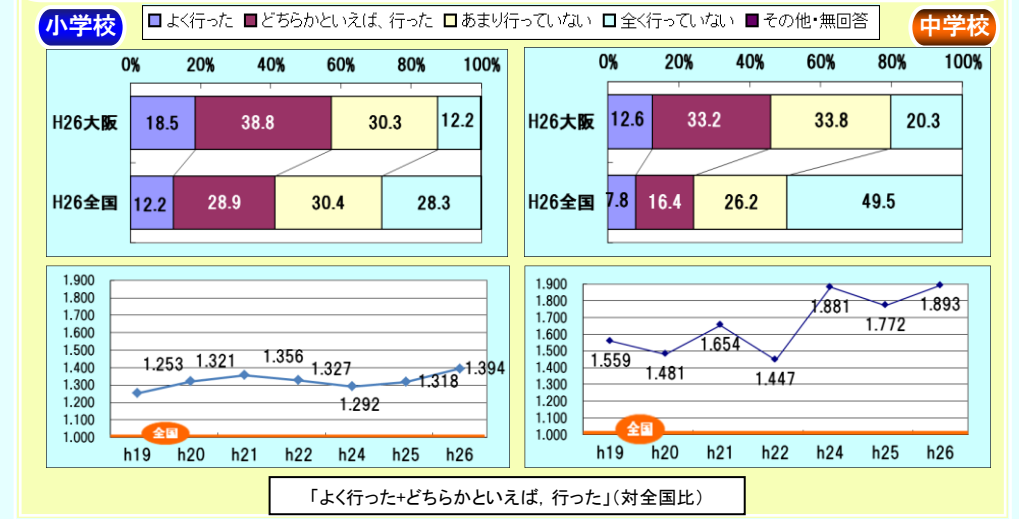
Q: 補充的な学習サポートを実施していますか?



6 授業サポート

・ボランティア等による授業サポートの実施状況は、小・中学校ともに全国の状況を上回っている

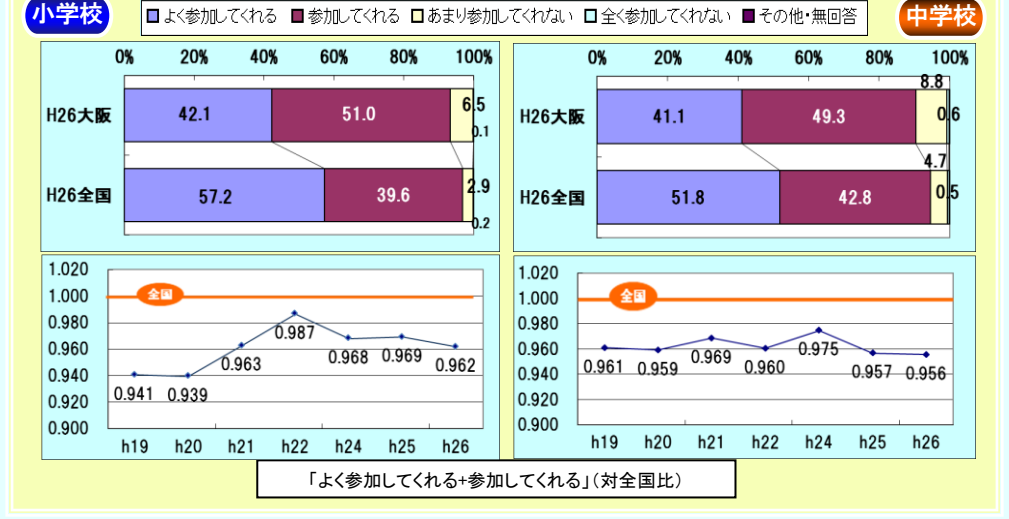
Q: ボランティア等による授業サポート(補助)を行いましたか?



7 PTAや地域の人参加

・PTAや地域の人による学校が行う教育活動への参加状況は全国の状況を下回っている

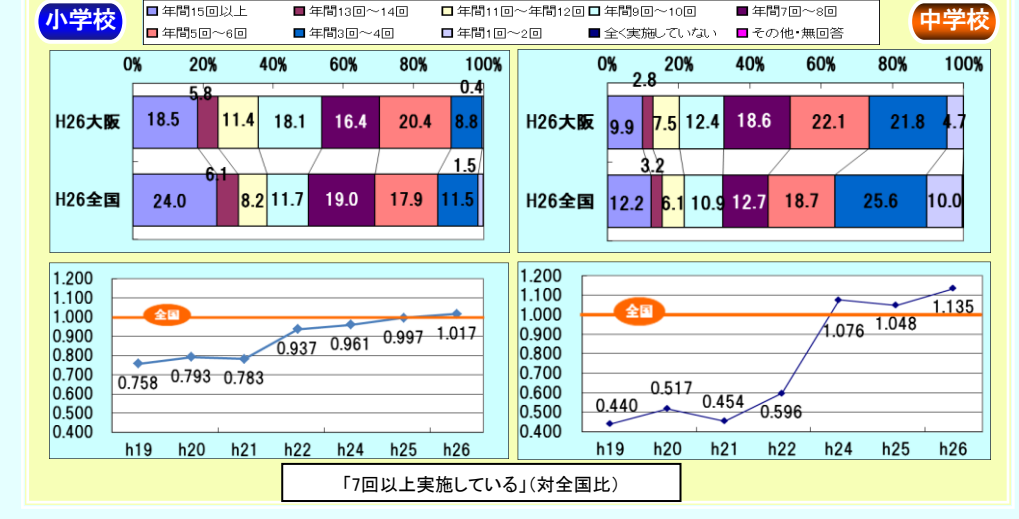
Q: 学校の諸活動にボランティアとして参加してくれますか?



8 校内研修

・授業研究を伴う校内研修の実施回数が7回以上の割合が、小・中学校ともに全国の状況を上回っている

Q: 授業研究を伴う校内研修を前年度、何回実施しましたか?

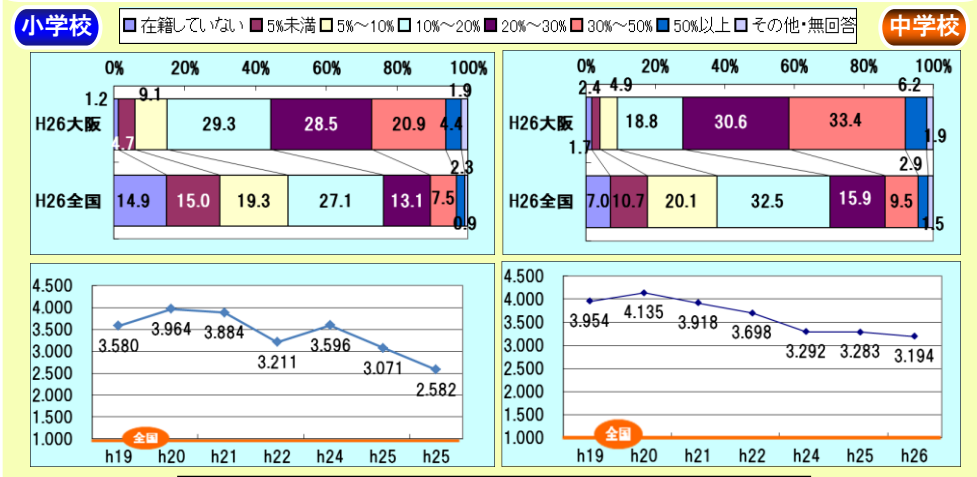


◆帯グラフの数値はすべて%表示です。
◆折れ線グラフの数値(対全国比)は、大阪府/全国で算出した値です。

9 就学援助

Q: 就学援助を受けている児童・生徒の割合は?

・小・中学校ともに、就学援助を受けている児童・生徒の在籍率の高い学校の割合が、全国の状況を大きく上回っている



「就学援助を受けている児童が在籍している割合が30%以上」(対全国比)